

# お金は東京の業者へ 市民はただ働き

なぜ？

## 国際芸術祭

しかも3年  
毎開催！



大町市は、来年6月に国際芸術祭「信濃大町 食とアート」の廻廊」を開催するために、市長自ら実行委員長となつて取組みを始めました。

総事業費2億円余をかけて、総合ディレクターの北川フラムさんの声がけによる現代アートの芸術家30人余の作品を市内に点在させて、観光客を引き入れるものです。また、市内に定住する芸術家が増えることもねらいです。芸術祭は今後3年ごとに開催する計画です。経費の大半は作品制作・管理費で業者に丸投げし、市民にはボランティア協力を求めています。

平成24年に有志の学習会「大町ラポラトリ」で北川フラムさんが講演されたことを機に、平成26年には「フラム塾」が始まり、同8月には民間主導の実行委員会（委員長はまちづくり協議会会長の佐藤悟さん）により、「信濃の国・原始感覚美術祭」と連動して、第1回「信濃大町 食とアートの廻廊」が催されました。このたび大町市が主導する一大イベントとして打ち出されました。しかし、この計画に対しては市民の中からたくさん疑問の声が出ています。このまま進めてしまつていいのでしょうか？

### 疑問1 市民に知らせず突然に「行政主導」

芸術、とりわけ現代アートは、個人の好みバラバラです。公共の空間に、しかもすでに国内外から100万人余の観光客が訪れる山岳景観が美しい大町の地に、公共のお金を投じてやるべきことなのでしょうか？

### 疑問2 地方創生といいながらお金は中央へ

地域の祭や伝統芸能の維持が難しい現状です。また、市内にも優れた芸術活動をされている方々があります。これらの継承や定着を支えることの方が大切です。外から持ち込んだアートを定着させることは難しいことです。

### 疑問3 作品の維持管理は市民の負担に

作品の設置は作者の意向が絶対なので、地元業者に波及する仕事はわずかです。芸術祭終了後に作品が撤去されるのは（もったいないけど）まだまだです。常設された場合はその特殊な工作物の維持管理が負担になります。

### 疑問4 事業費の明細をなぜ出せない？

市内に展示される作品を制作する芸術家の選定は北川フラムさんに一任され、約1億5千万円を丸投げ。平成28年度も約5千万円が北川さんの準備資金として市は予算計上しています。作品の内容や製作費については芸術の特殊性を理由に明らかにしないと北川さんは発言しました。作品の事前審査をしないと、北川さんが一本釣りで賞金を与えるようなものです。

### 疑問5 他にやるべきことがあつたのでは？

国際芸術祭は地域振興や定住促進が目的だと説明されています。巨費を投じるならば他に優先課題があります。福祉や子育て、地域の資源や人材・資金をいかし地域にお金がまわることにこそ力を入れるべきです。

### 疑問6 地元の力で芸術祭はできる

「祭 in 大町」のすばらしい舞台が示すように、地域の伝統や自然、地元の人材や熱意ある人たちの力を結集すれば、他にはない魅力的な「芸術祭」ができるはず。地域個性を育てることで発信力も高まります。

# 見直すなら今。3月議会で止めよう！

市長や議員に手紙やメール、電話で声を届けよう！

市役所秘書課 Tel:22-1926 広聴担当 Fax:23-5050 市長へのメール:mayor@city.omachi.nagano.jp  
市議会事務局 Tel:22-1139 Fax:22-1223 議長へのメール:gikai@city.omachi.nagano.jp

## 大町の芸術祭を考える会

よびかけ人代表:渡辺純子  
大町市仁科町3302 NPO地域づくり工房気付  
Tel&Fax:22-7601 E-Mail:npo@omachi.org

## 討論会

2/19(金)午後6時30分~  
公民館分室(東町)2階

どなたでも参加して発言できます。お気軽にどうぞ！  
当日来られない方はぜひご意見をお寄せ下さい！

## 作品制作費に消えていく・・・

新潟県十日町の第3回「大地の芸術祭」(2006年)の例では、事業費が6億5400万円で、その支出の86%にあたる5億6200万円が北川フラムさん(上越市出身)の事務所(AFG)への委託費です。その6割以上が、内外の著名な芸術家等に依頼する作品制作費です。第3回芸術祭では175点が制作されました(一作品あたり平均224万円)。そのうち、恒久的に設置される作品は12点で、大部分は芸術祭期間中のみでの展示です。

北川さんに委託されている作品制作費の使いみちは芸術の特殊性を理由に非公開となっています。

## 十日町では20年間で110億円

十日町ではこの20年間に110億円を「大地の芸術祭」に投入してきました。市民の批判も根強くありますが、著作権を伴う作品の維持管理などがあって、「いったん始めたらやめられない」状況です。

## 3月議会で止めないと・・・

大町市は今年度の予算で、国際芸術祭の基本計画を作成するための北川さんの事務所への委託費500万円と、再来年度での実施のための積立金3000万円を議会の承認を得て、執行しています。

この3月議会で審議される来年度予算では、国際芸術祭準備関連予算として北川さんの事務所に委託する経費など5,000万円余に加え、積立金3000万円も計上される見込みです。

このまま突き進んでいいのか。市民の疑問の声を市議会に届けましょう！

「大地の芸術祭」ホームページの作品リストより転載(詳しくは同ホームページをご覧ください)



かまぼこフェイス(展示中) / 開発好明



○△□の塔と赤とんぼ(展示中) / 田中伝太郎



日本に向けて北を定めよ  
／リチャード・ウィルソン  
(展示中)

屋外展示の作品例



花咲ける妻有(公開休止中)  
／草間彌生(松本市出身)



No Man's Land  
クリスチャン・ボルタンスキー  
(展示終了、約16トンの古着の山)

「大地の芸術祭の里」  
越後妻有

2016 冬開催中 2016.1.30～3.21

発行：大町の芸術祭を考える会(チラシや討論会の費用は有志のカンパでまかなっています。カンパにご協力下さい！)